

サブスク会社の調達支援

リーテックス

複数入金予定を電債担保

電子契約サービスのリーテックスは6月中旬にも、サブスクリフション(定額利用)事業者の資金調達を支援するサービスを始める。サブスク事業者が利用者と契約を同社の電子契約サービスで行うと、契約期間中の複数

の入金予定を一つの電子記録債権にできる。金融機関は、この電債を担保とすることで、創業当初で赤字を抱えるが成長見込みのあるスタートアップのサブスク事業者への融資がしやすくなる。信用保証協会の流動資産担保融資保証制度の担保としても利用できる。

サブスクビジネスは、サービスの開発や顧客管理のインフラ整備、マーケティングや営業などで先行してコストが発生する。一方で売上げは一括ではなく、毎月の利用料となるため、売上げによるキャッシュの回収が遅く、成長期の一定期間はキャッシュフローが赤字傾向。赤字の間は借入れが難しく、資金調達に苦労することが多い。

例えば、サブスク事業者が利用者とリーテックス社の電子契約で契約を結ぶと、毎月10万円の利用料で2年契約であれば、240万円分を電債化できる。サブスク事業者はこれを担保とすることで金融機関からの借入れがしやすくなる。

この仕組みは、不動産オーナーがテナントから将来受け取る賃料収入でも活用できる。金融機関は不動産を担保にとらず、キャッシュフローを担保にして不動産事業者に融資できるため、抵当順位が2位以下で追加融資を検討する場合にも対応できる。

新サービス「サブス